

日本の老舗、神田の老舗

東京大学先端技術科学研究センター
東京大学都市デザイン研究室 教授 所長

西村 幸夫

なぜ日本に老舗が多いのか

インターネットの百科事典

Wikipediaに老舗リスト List of oldest

companiesという項目があり、これをひくと創業が古い世界の企業の一覧表を見る事ができる。これを見ると驚くべきことがわかる。

なんと世界の最古企業ベスト10のうち7社までが日本の企業なのである。ベスト10は表1のようになっている。

1位の金剛組は大阪にある社寺建築専門の建設会社で、聖徳太子ゆかりの来歴を持つ。世界最古の会社として今までよく知られていた。宮大工の伝統を受け継ぐ建設会社としてはこのほか、愛知の中村社寺（970年創業、世界12位）がある。

2位の慶雲館は西山温泉にある老舗の温泉旅館、ギネスが認定する世界最古の旅館としても知られている。こうした古くから家族経営で続いている温泉旅館は日本には非常に多く、3位の城崎温泉の古まん、4位の栗津温泉の法師のほか、聖徳太子来訪のいわれが残

る道後温泉、「日本書紀」に記録が残る南紀白浜温泉などはじめとして、日本各地の古湯には、それぞれ立派な老舗旅館が存在している。

5位のTECH海発は新潟県小千谷市の精密機器の会社であるが、その起原は古代からの鍛冶職人にあるということで、創業が8世紀に遡ることになる。

6位の源田紙業は水引などの祝儀用品を扱う会社で、奈良時代に創業し、京都遷都に伴い京都に移ったという歴史を持つ。

ここまでトップ6社を日本が独占しているのである。

東京商工リサーチ社の2012年の調査では、日本には創業100年を超える老舗企業は2万7千社を数えるという。小規模な店舗まで含めると、その数は10万社にまでぼるという調査報告もある。

なぜ、日本にはこのように老舗が多いのだろうか。

ひとつの明らかな特長はものづくりの企業が日本には多いということである。職人型の企業と言えばいいだろうか。中世にまで遡る日本の職人型の老舗としては、上記の企業のほか、和菓子・製茶・薬種・鑄造・味噌・酒などの製造業がある。

たしかに職人型の企業は、技術を受け継ぎながらコンスタントに見いだすことが多いということは言えそうである。もちろんものづくり企業でも世界に羽ばたいているところは数多いので、一概には言えないが、企業拡大よりも企業の永続性を大切にするという気風を持った企業も少なくないことは言えるだろう。

その背景には、こうした職人的な氣質を大切にする日本の風土があるのだろう。

対して、商人型の企業はそれほど古くないことがわかる。もともと商人型の企業が成立するために商品流通の仕組みが成立しないければならないため、近世以前にこうした企業が成立する余地はほとんどなかつたといえる。

商人型の企業としては三井家による三越（越後屋）（1673年創業）、三井呉服店）や住友家の銅精錬業、銅貿易から始まる各種貿易業などが有名であるが、いずれもいいだろうか。中世にまで遡る日本の職人型の老舗としては、上記の企業のほか、和菓子・製茶・が築かれた。

表1：世界の最古企業ベスト10

1位	578年	金剛組(社寺建築)
2位	705年	西山温泉慶雲館(山梨県、旅館)
3位	717年	古まん(兵庫県、旅館)
4位	718年	法師旅館(石川県、旅館)
5位	760年	TECH海発(新潟県、機械)
6位	771年	源田紙業(京都府、祝儀用品)
7位	803年	Stiftskeller St.Peter (オーストリア、レストラン)
8位	862年	Staffelter Hof(ドイツ、ワイン)
9位	885年	田中伊雅佛具店(京都府、仏具)
10位	900年	Sean's Bar(アイルランド、パブ)



江戸から続くヒット商品の数々。上は株式会社豊島屋本店の「白洒」。下は株式会社宇津救命丸の「宇津救命丸」。

表2：神田の老舗業種別内訳	
1位 食にかかる老舗	
(蕎麦、寿司、饅頭など)	48軒
2位 ものづくりにかかる老舗	
(和紙、各種小物など、卸販売業を除く)	43軒
3位 書店、古書店（出版を含む）	23軒
4位 学校（各種学校を含む）	9軒
5位 病院	7軒
6位 医薬品、漢方薬	6軒
7位 印刷・製本	4軒

このうち創業年が集中しているのが、明治20年（1887年）の7軒で、次いで明治30年（1897年）・39年（1906年）・43年（1910年）の6軒となっている。総じて明治中期から後期にかけてひとつの山が見られることが分かる。

また、同じく100年企業167軒の業態別の内訳のうち数が多い業種を見ると、表2のようになっている。

日本全体の傾向と比べると、神田は温泉地ではないえ、ホテルとの競合が激しいので、老舗旅館が少ないのでやむを得ないかもしれない（明治31年（1899年）創業のホテル龍名館お茶の水本店のみ）が、飲食店の割合が多いのはいずれの大都市も同様だと言えるが、それ以外に、ものづくりに関連した業種が数多く、ものづくりの対象も近世から近代のものまで多様である点に特色がある。たとえば、伝統的な職人仕事の

（蕎麦、寿司、饅頭など） 48軒

（和紙、各種小物など、卸販売業を除く） 43軒

書店、古書店（出版を含む） 23軒

学校（各種学校を含む） 9軒

病院 7軒

医薬品、漢方薬 6軒

印刷・製本 4軒

このうち創業年が集中しているのが、明治20年（1887年）の7軒で、次いで明治30年（1897年）・39年（1906年）・43年（1910年）の6軒となっている。総じて明治中期から後期にかけてひとつの山が見られることが分かる。

また、同じく100年企業167軒の業態別の内訳のうち数が多い業種を見ると、表2のようになつていて。

（蕎麦、寿司、饅頭など） 48軒

（和紙、各種小物など、卸販売業を除く） 43軒

書店、古書店（出版を含む） 23軒

学校（各種学校を含む） 9軒

病院 7軒

医薬品、漢方薬 6軒

印刷・製本 4軒

このうち創業年が集中しているのが、明治20年（1887年）の7軒で、次いで明治30年（1897年）・39年（1906年）・43年（1910年）の6軒となっている。総じて明治中期から後期にかけてひとつの山が見られることが分かる。

また、同じく100年企業167軒の業態別の内訳のうち数が多い業種を見ると、表2のようになつていて。

（蕎麦、寿司、饅頭など） 48軒

（和紙、各種小物など、卸販売業を除く） 43軒

書店、古書店（出版を含む） 23軒

学校（各種学校を含む） 9軒

病院 7軒

医薬品、漢方薬 6軒

印刷・製本 4軒

こと、などである。

そして、日本の社会はこうした条件にうまく合致しているのである。

つまり、古来、庶民を拘束したり、その生活基盤を奪ってしまうような戦乱や武力闘争はほとんどなく、あつたという日本社会の歴史があつた。

実学を重視し、農民や職人を大切にする社会の倫理観も背景にはな戦乱や武力闘争はほとんどなく、あつたという日本社会の歴史があつた。

さらに、長男による家督相続

という歴史が、代々、家を継承す

ることに価値を見いだす道徳観を育んでいたと言える。

地形的に見ても山がちで、入

り組んだ谷あるいは小さな生活圏で完結した社会を営んできた日本人にとって、地形を超えた拡張よりも、地形の中で調和の方がはるかに実感をもつて迎えられたといふことができよう。

こうして日本に老舗が多いのは、日本社会の個性に源を発しているといえそうである。

話題を東京に絞ると、なぜ神田に老舗が多いのか、という問い合わせがある。東京のなかでも神田には日本橋に次いで老舗が多いのである。神田学会の神田100年企業の調査によると、現時点で創業100年を超える老舗が神田には17軒近く確認されている。

なぜ神田に老舗が多いのか

このうち創業年が集中しているのが、明治20年（1887年）の7軒で、次いで明治30年（1897年）・39年（1906年）・43年（1910年）の6軒となっている。総じて明治中期から後期にかけてひとつの山が見られることが分かる。

これは、企業が冒險をしないと過剰な投資をするのではなく、慎重に企業活動の永続性に重きを置くといた価値觀が主流を占めているということがわかる。ある一時点でいかに儲かつていても、そこにいつた価値觀が主流を占めているという企業倫理である。

また、見方を変えると、日本の老舗には企業の全面展開を選択するよりも、企業の継続に重きを置くと

ないでの、いかに利益があるからといって全国展開をするといった性格のビジネスではない。

中世にまで遡る商業組織はまず存在しないのである。

もうひとつの特長は、地域密着型のサービス業、特に温泉旅館業が多いことである。温泉旅館はまさしく地域から離れては存在し得ないので、いかに利益があるからといって全国展開をするといった性格のビジネスではない。

また、見方を変えると、日本の老舗には、企業の全面展開を選択するよりも、企業の継続に重きを置くと

ないでの、いかに利益があるから

といつて全国展開をするといった性格のビジネスではない。

中世にまで遡る商業組織はまず存在しないのである。

もうひとつの特長は、地域密着

型のサービス業、特に温泉旅館業が多いことである。温泉旅館はまさしく地域から離れては存在し得ないので、いかに利益があるから

といつて全国展開をするといった性格のビジネスではない。

日本の老舗、神田の老舗



あんこう料理店「いせ源」の外観。

本橋—京橋—銀座という一連の地区は、それぞれ接してはいるものの、いずれも独自の性格を有しており、それが老舗のスタイルにも反映している。

この地区は全体として明暦の大火灾、震災そして戦災とおおきくは3度の大灾害に見舞われており、その中でも特に神田地区は戦災復興の土地区画整理によつても大きく街区の形状を変えることになつた。

土地区画整理を加えると4度の大改変が加えられたにも関わらず、神田には多くの老舗がいまだに現役で活躍している。したがつて神

地区形成の歴史が老舗の業種に反映しているのである。

田にはかんだやぶそばやあんこう鍋のいせ源などの老舗がある須田町界隈といつたごく一部を除いて、老舗を象徴するような古めかしい建物というものがない。(須田町にしても江戸時代には武家地だったのと、明治以降の開発である。) 災害が多かつたため、老舗が外形で表現されるのではないということスタイルが生まれたと言えるだろう。しかし、それだけではないと思う。より積極的な意味をそこから読み取ることが出来ると思う。

つまり、老舗は外的的な建築物で表現されるのではなく、受け継がれた技術によってその価値が表現されているということが、ここでは永らく定着してきたと言えるのである。これはものづくりに関

連した老舗だけでなく、寿司屋や
蕎麦屋などの食の店でも同様である。そういえば寿司屋はカウンター
の向こうに陣取る寿司職人の姿が
最大の特色となっている。職人の姿を前面に出すこうしたスタイル
が定型化した飲食店というものは
世界にも珍しいに違いない。

ここにも技術を前面に持ち出す
神田の老舗の（そして日本の老舗
一般に通じる）特色がある。

ふえきりゅうこう——これは筆者
者が、3回の神田100年企業の連続シンポでインタビューをさせ

い信念が感じられる。



神田淡平



上：神田志乃多寿司／下：笹巻けぬ

西村幸夫(にしむら・ゆきお)

工学博士。1996年より東京大学教授、2013年より東京大学先端科学技術研究センター所長。この間、MIT客員研究員、コロンビア大学客員研究員などを歴任。専門は都市計画、都市保全計画、都市景観計画など。



これまでのシンポジウム「神田学会」の概要			
回数／日程	創業年	業種／企業名	氏名（代数）
第151回 2013年 9月10日	1882	古書 大屋書房	纁纁公夫 氏（3代目）
	1596	酒造 (株)豊島屋本店	吉村俊之 氏（16代目）
	1597	小児薬 宇津救命丸(株)	宇津善行 氏（9代目）
第152回 2014年 2月25日	1805	弓道具 (株)小山弓具店	小山雅司 氏（8代目）
	1818	書道用品 (株)玉川堂	齋藤 彰 氏（7代目）
	1894	礼服 (株)カインドウェア	渡邊喜雄 氏（4代目）
第153回 2014年 7月3日 (東京商工会議所千代田支部主催)	1880	蕎麦 (有)かんだやぶそば	堀田康彦 氏（4代目）
	1825	紅製造、化粧品 (株)伊勢半	澤田晴子 氏（7代目夫人）
	1872	医薬品 (株)龍角散	藤井隆太 氏（5代目）



シンポジウム「第152回神田学会」の様子。